

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。今後も個別に必要な支援を講じていく必要がある。また、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータをさらに効果的に活かす方法を検討していきたい。国語では、漢字の定着はみられたが、主語・述語の関係の理解に課題があるので、「言葉の特徴や使い方に」に関する事項」を重点的に指導していきたい。また、算数では「変化と関係」の領域である割合の問題についてつまづきみられる傾向があるので、テープ図やブロックなど具体物を使ったりICTを使ってシミュレーションを繰り返したりしながら定着を図っていく。そして、児童の主体的な学びを引き出すために、問題意識を高めたり、課題を見出したりする支援の工夫を考え実践したり、児童一人ひとりに合わせた個別最適な学びのさらなる充実を図っていく。
思考・判断・表現	概ね目標を達成することができている。国語では、「読むこと」の領域に関して全国学力・学習状況調査でもさいたま市学習状況調査でも今年度の活動の成果がみられた。引き続き読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめる活動を中心に行っていく。また、算数では協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって主体的に相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践していきたい。そして、今後も児童がのびのびと安心して学習に取り組む環境をつくるために、自分の思いや考えを表現する活動の充実を図るとともに、互いの思いや考えを認め合う活動を取り入れた授業を実践していきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】 ・国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 ・算数「図形」変化と関係 【指導上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の定着に、個人差がみられる。児童が反復・習熟に取り組む時間の確保が不十分である。	⇒ ・算数では、ITを効果的に取り入れて指導を行ったり、各児童の学習進度に合わせた学習を行ったりする等、個別最適な学びが行えるような環境を整える。【単元に1回以上】 ・「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組みる。【週に2度】 ・1人1端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃく」を意識した児童主体の授業を行う。【毎日】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 ・国語「書くこと」「読むこと」 ・算数「図形」変化と関係 【指導上の課題】 自分の考えをまとめる、進んで発信したりすることに意欲的でない場面がみられる。子どもたちが安心して、主体的に活動できる環境を整えることに関して不十分である。	⇒ ・協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践していく。【毎日】 ・児童一人ひとりが、自分の頑張りを素直に認め、他者の頑張りを見つけて認め合える授業を展開していく。【全教員による教育実践の実施】 ・読解力向上のために、読書活動の充実を図る。【朝読書の複数回実施】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	年間を通して、算数を中心に少人数指導教員やスクールアシスタントの職員を配置しながら、複数の教職員で児童の指導・支援にあたることのできた。そして、週に2回設定している「朝算数」の時間や授業の始めや終わりの時間に「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保し、実行することができた。また、授業アンケートを活用しながら個別のデータを教職員が把握するよう努めた。その成果として、令和7年度全国学力・学習状況調査、令和7年度さいたま市学習状況調査共に、同一集団の経年比較においても上回る教科が多かった。
思考・判断・表現	A	年間を通して、どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践することができた。その結果、令和7年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が5・6年生共に95%前後となり、市の平均を大きく上回った。また、学校課題研修の一環として、全教員による「児童一人ひとりのよさを生かした個別最適な教育実践」を行い、協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数ともに上回った。特に国語の「正しい漢字の使い方」について、算数の計算問題、図形に関する問題などでは、全国平均の正答率を大きく上回った。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果であるといえる。一方、算数における「数直線上に示された数を分数で書く」問題の正答率が、他の問題に比べて低かった。日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。また、より一層、朝のパワーアップタイム等を活用しながら、児童一人ひとりに合った問題を反復し、習熟していくような活動を継続していく。
思考・判断・表現	令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数どちらも上回った。特に、昨年度の課題であった「読むこと」の領域に関する正答率が高く、読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめる活動を中心に行ってきた成果であるといえる。「書くこと」の領域は他の問題に比べて低めなので、文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめる活動を重視していく必要がある。算数では、「共通する単位分数を見つける」問題が他の問題よりも正答率が低かった。「知識・技能」の観点の時と同じように、日常生活を絡めながら、活用できる「思考・判断・表現」の力を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和7年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語と算数は、どちらもさいたま市の平均を上回り、同一集団の経年比較においても、令和6年度の結果を上回っているものが多くあった。特に漢字の使い方を問われる「言葉の特徴や使い方に」に関する事項について、算数の「数と計算」の領域について、さいたま市の平均正答率を大きく上回っていた。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果である。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答が95%を超えていた。児童が主体的に学習に取り組む中で「協働的な学び」の充実が図られていた結果であると考えられる。
思考・判断・表現	令和7年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語と算数は、どちらもさいたま市の平均を上回った。一方で、国語の「話すこと・聞くこと」の領域は他の問題に比べて点数が低めであったので、話し合い活動の際に話型を提示してから行わせたり、聞かせるポイントを明確にしてから練習させたりしていくとともに、自分の考えや思いを友達に進んで表現する活動の充実を図っていく必要がある。また、算数において「データの活用」の領域について課題がみられた。二次元表や複合グラフの見方について、ノートやプリントでの活動だけでなく、デジタルのよさを生かしながらICTを積極的に使い、特徴や定義を捉え理解を深められるような活動を取り入れていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	算数を中心に、学年によっては複数の教職員で児童の指導・支援にあたることのできた。また、週に複数回、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。今後も1人1端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃく」を意識した児童主体の授業を行っていく。	個別のデータを授業アンケート等もいながら教職員が把握できるようにするとともに、児童が確認する時間を設定するなど、自身の学習状況を踏まえ見直しをもって学ぶことができるようにする。【単元に複数回実施】
思考・判断・表現	B	どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践するよう努めた。全教員による教育実践は、2学期以降に実施する予定している。自尊感情を一層高めていくとともに、児童一人ひとりのよさを生かした個別最適な授業を行っていく。また、読解力向上のために、読書活動の一層の充実を図っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)